

【宇土市】校務D X計画

1. 趣旨

宇土市は校務用端末のシンクライアント化、統合型校務支援及び服務管理システムの導入など、早期から校務のDX化や事務の効率化に取り組んできました。

さらに教務についても、タブレット端末用の学習支援ソフト、授業支援ソフト、電子黒板の全教室配備など、ICTを活用するための環境整備も進めてきました。

2. 宇土市における課題等について

①ICTリテラシーが教職員ごとにばらつきがあり、ICT機器の活用頻度が全体として低い状況にあります。

②児童生徒用タブレットは、端末の起動に時間を要することや、アップデートによるレスポンスの低下などの理由により、限られた授業時間の中では利用に適していないため、授業や持ち帰り学習の利用頻度が低く、あまり活用が進んでいません。

③データファイルの移行にUSBメモリを使用しており、個人情報漏洩のリスクがあります。

3. 校務D Xに向けた取組

今後は下記の公務DX計画を推進し、教職員の働き方改革も併せて推進します。

- ・現在設置中のGIGAスクール支援センターの体制を強化し、教職員に対するICT機器の活用促進のための研修会の実施や授業におけるICT機器の活用例を提案し、教職員全体のICTスキルの向上に努めます。
- ・児童生徒用タブレットについて、現在使用中の現行端末から別OSへ変更。端末の起動時間やレスポンスについては現行端末と比較して飛躍的に改善するため、児童生徒用のタブレット利用頻度の向上が見込まれます。

- ・情報漏洩リスク低減のため、校務用端末における外部ストレージデバイスの利用制限を行います。また、学校現場での事務効率の低下を回避するために校務用端末を自宅に持ち帰って、校務支援システムなどを利用できるようリモートワーク実施可能な体制を整備することで、子育て世代の教職員の多様な働き方を実現します。

- ・次世代型校務支援システムの導入を令和8年度までに検討し、校務系・学習系ネットワークの統合を目指します。

- ・FAXの利用・押印の見直しを行い、クラウドツール等を導入してペーパーレス化を検討します。

- ・クラウドツールの利活用により、職員会議の資料を共有し、ペーパーレス化と事前情報共有による会議の質向上を図ります。